（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0174700898		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム　東めむろふれあい館1・2（1ユニット）		
所在地	河西郡芽室町東めむろ3条北1丁目8−4		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9　ナルク江別内
訪問調査日	平成24年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々の生活の中で入居者の意思や行動を出来るだけ尊重し、本人のペースで無理なく生活できる様に配慮している。行きたい時に行きたい所に行けるよう、いつでも希望に対応できるように、休みたいときに休み、お風呂に入りたい時に入れるよう、いつでも対応できるように心がけている。自由な生活の中でも、個人のプライバシーは尊重し入居者同士がストレスを感じないような人間関係を作れるよう、職員が仲介している。
あまり一日の中で動きが少なくならないよう、こまめに関わり、移動やトイレでこまめに身体をうごかせるようにしている。
施設での生活が孤立しないように、家族との面会を定期的に取り組み、自らが地元に戻りご家族と交流できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は芽室町市街地から4km程帯広市方向（東側）の、自然に恵まれた新しい住宅地に位置している。ホーム周辺の広い敷地には母体法人がシニアマンション6棟を運営していて、シニアマンション入居者が来訪するなど利用者と交流している。また、災害の夜間発生時にシニアマンション入居者の支援を期待できるなど、ホーム運営に相乗効果を発揮できる場面が見られる。母体法人は多くのグループホームなどを運営し、研修、災害対策等で事業所と連携し相乗効果をあげている。施設長は母体法人の各種委員会（身体拘束、虐待、事故等）委員長として高い視野から研修、観察を体験しており、施設運営に反映されている。ヒヤリ・ハットの事例には綿密な検討がなされ、対策が考えられている。職員は明るく、家庭的な雰囲気の中で利用者の立場に立ったサービス提供に努め、利用者・家族から感謝の声が寄せられている。脳梗塞で言語障害になった利用者に、職員が根気強く接することで次第にコミュニケーションのルールが出来上がった。家族や職員の見守りと配慮に支えられて、利用者はその人らしい毎日を過ごしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいる。また、会議等でも周知している。	管理者と職員は法人の理念を共有して、会議などで常に確認しながら、利用者が地域住民として安心・安全に生き生きと暮らせるように実践に取り組んでいる。	母体法人の理念そのままでなく、日々の介護サービスの実践に基づき地域に適合した、事業所独自の理念を職員全員が参加して作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域町内会に加入し、町内会行事等に参加し交流を図っている。ホームでの夏祭りに地域住民の方に参加してもらっている。	加入している町内会の花見に参加し、事業所前にやってくる神輿を見物する。事業所の夏祭りに地域住民が参加しており、相互の交流がある。住民からの相談に随時応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に事業所の発行するふれあい通信を回覧をしている、又事業所が行う夏祭りに町内会員を招待参加をし交流を図るよう努めている。また、来所や電話にて介護上の相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、サービス提供状況の報告などを行い、参加された方々の意見や質問は、ユニット会議などで取り上げて周知している。	町・包括支援センター、民生委員、町内会、家族が参加して、年6回開いている。事業活動やヒヤリ・ハット事例を報告して、予防策についての提案や意見をもらっている。外部評価のあった時には報告し、議案にのせて記録もしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価、外部評価等を提出し又運営上の疑問等には積極的に相談しケアの向上に努めている。町・地域支援センターの職員に運営推進会議へ参加していただいたり、事業所内で疑問に思うことは市担当者に意見を求めたりしている。	町役場に出向き、報告や運営上の課題やサービスについての相談を行い、ケアの向上と連携関係の構築を目指している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止推進委員会を設置し、又全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し社内研修にて報告意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。身体拘束マニュアルを作成している。また、夜間のみ玄関は、施錠し、日中は、自由に出入りできる環境にしている。	法人は身体拘束廃止・虐待防止の委員会を設置し、職員が参加して、全員が内容を共有している。ユニットで意見交換会を実施し、介護サービスへの実践につなげている。防犯上、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人で高齢者虐待防止検討委員会を設置し、又全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し社内研修にて報告意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。虐待防止マニュアル作成している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、報告等を通じて職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前に利用者及び家族に閲覧していただき、契約時に説明し質問等を聞き確認してから契約を行う。解約時は次の生活場所を相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている。家族からの意見があった場合はスタッフ全員で会議を持ち運営に反映している。	家族の来訪時に可能な限り話しかけ、時間をとって意見や要望の把握に努めている。出てきた意見は、必要があれば全職員で検討し、あるいは施設長につなぐなど適切な処置で運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部に上げていく体制で反映している。	常に職員とコミュニケーションを密にして、会議の中で意見や提案を検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社での就業規則に定めている、又職員の評価を行い実績、勤務状況を把握し反映している。研修会の参加や資格取得の機会を設けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施全員が研修を受けれる機会を確保している。外部研修にも積極的に参加しケアの向上に努めている。毎月の会議を通じて職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ協議会に加入し、同業者とのネットワークづくり又相互評価事業により評価を受けサービスのケア向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入居前に訪問面談し、御本人の要望等を聞き満足し希望された時点で入居をしていただくよう努めている。面談時の情報は、スタッフに周知し適切なケアが行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては、利用料、サービス内容を説明し、要望等に対して出来るだけ満足、信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活暦、主治医、各関係機関の生活等を把握しアセスメントにより支援するサービス内容を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人のペースに添って自分に出来ること、支援が必要なことを把握し、その人らしい安心した生活をしていただける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がこれまで抱えていた介護に対する思いを受け止め、本人と家族が今後も良好な関係を築いていけるよう支援している。又月1回のおたより等で利用者の現状報告し親密な関係を築く様努めている。面会時には家族の思いや希望を聞きケアに反映できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人については出来るだけ疎遠にならないよう支援に努めている。面会時には交友関係を把握し積極的に話をきいて情報収集している。通院時にあった知人とゆっくり話をする機会を設けている。	馴染みの人や知人に話をする機会には、できるだけ気持ちよく会話できるように支援している。どのような知人なのかを聞いて、交友関係の把握をして、職員で共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、部屋の閉じこもりを少なくし、出来るだけリビングでの生活を多くしお互いに支え合える環境作りに努めている。職員を通じて利用者同士が顔を合わせられるように仲介している。個々の性格も考慮したソファーや食堂の配置に工夫している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話、入院の場合は訪問等を通じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて、その方の思いや望まれることの把握に努めている。また、意思表示が困難な方には、非言語的コミュニケーションを使用し働きかけている。	介護のなかから希望や意向を汲み取る努力をして、表出が困難な場合はケース記録や家族の情報から本人本位に把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントで情報収集をしたり、利用者の馴染みの家具,什器類等を利用し、出来るだけ生活環境の変化を少なくし、本人らしい生活を送ることが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、その人の有する能力（ADL・IADL）変化があれば、会議で討議している。24時間の記録用紙を使用し一日の過ごし方を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きながら、スタッフ全員でアセスメント・モニタリングを行い、課題検討を行いながら現状に即した介護計画を作成している。記録に日々の変化や行動を記入し、本人の状態把握の共有性に努めている。	現状報告の上、利用者や家族の意見・要望を聞いて、全職員でモニタリングを行い、介護計画を作成している。3ケ月毎見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、体調変化等を介護計画の目標に沿って記録し、スタッフ全員が共有し、介護及び介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の要望等に応じ柔軟に対応するよう心がけている。家族との連絡を密にし、本人が行きたい所へ出掛けたり出来るような体制作りをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会に加入し、町内行事参加、防災訓練の参加などで地域住民の理解を得られるよう努めている。シニアマンションの住人が遊びに来られるような配慮をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が従来のかかりつけの医療機関での受診を基本に対応している。又医療連携をしている医療機関との連携を蜜にしている。	かかりつけ医に継続して受信できるように職員が同行し支援している。受診情報は家族に報告して、共有している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を把握し看護師に情報を提供し相談を受けている、又看護師は医療機関への情報を提供し適切な医療を受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い受け入れ体制を整え早期退院に向けての取り組みを行っている。退院に向けた体制つくりのために病状説明の際には、職員も同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族と話し合い説明をしお互いに方針を共有し支援に取り組むよう努めている。入院や体調の変化があればその都度、今後の対応について相談している。	重度化した場合や終末期に、事業所ができることとできないことを契約時に家族に説明している。医者との連携や移転先の病院などの情報など相談に応じて支援することを話している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び事故発生時の応急手当等については、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し法人全体で対策を行っている。各施設で年2回の防火防災訓練を消防署の協力により実施している。	消防署が参加して年2回防災訓練を行っている。運営推進会議のメンバーも参加。法人の防火防災対策要綱があり各施設間の協力体制がある。外回りの可燃物点検など火を出さない工夫をしている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録の取り扱いは、本人のプライバシーに配慮して取り扱ってある。一人一人の人格を尊重し、言葉遣いには十分に気をつけた対応をしている。	利用者の人格尊重に配慮し、特にトイレ誘導や日常のことば使いに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める力や希望などをその都度聞きだし対応している。特に表情の観察や全身の反応を観察している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の毎日の流れを優先することなく、希望に添った一人一人のペースを日常の会話の中から聞き出し支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容による理美容、行きつけの美容室の利用を行っている。又身だしなみについては洋服を自分で選んでもらい、汚れた服をすぐに着替える、髭剃りを丁寧にするなどこまめに整容を行っている化粧品を用意することもある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の決まった食事でなく、週に1度は利用者の希望に応じての献立つくり。又個々の能力にあった食事の準備、後片付けを手伝ってもらっている。盛り付けをきれいにし、品数多くしている。外食を月1回程度している。	利用者の希望のメニューを週に1度提供し、能力に応じ準備や後片付けを職員と一緒にしている。外食や誕生会でホーム内バイキングなど月に一度はイベントを企画して食事の変化を楽しんでもらっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録したり、水分摂取表を活用し、一日の摂取量が一目でわかるようにしている。食事形態を合わせたり、刻みにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食事後日課の中に取り入れて、一人一人本人の能力に合わせて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している、又本人の尿意,間隔等を配慮し、状態に合わせた下着,リハパン、パットの使い分けをしながら自立に向けた支援をおこなっている。陰部感染症を発病しないためのケアの方法も職員間で統一している。	利用者の排泄パターンを個々に把握して、声掛けや誘導により排泄の自立を支援する。状況に合わせてポータブルトイレやトレーニングパンツを利用して排泄機能の保持を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無や排泄物の確認をしていく中で、浣腸や下剤を極力使用しないようにしている。また、便秘をしている入居者には、乳酸菌・繊維の多い飲み物を提供する等工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂に入れる環境を作っている。失禁などで汚れたときはすぐに入れるようにしている。個々の体調等に配慮しながら、利用者の希望に添った対応に心掛けるよう支援している。	毎日入浴が可能である。体調に配慮しながら、無理強いはせずに、利用者の希望に応じた対応をしている。入浴が楽しくなるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、又その日の体調等状況に応じ休息、安眠できるよう支援している。昼寝は希望に応じてとっている。夜間就寝時も照明や室温に配慮し安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する成分、目的及び副作用等を理解し、又医師や薬剤師へ日常の情報提供をしながら服薬調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームにおいて個々の能力にあった役割分担をし、その人らしい豊かな生活が出来るよう支援している。音楽鑑賞、歌番組、新聞、オシボリたたみ、塗り絵、食器拭き、牛乳配り。畑仕事を行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ストレスをためない様利用者の希望に添って散歩、買い物等を行っている、又行事計画により、外食、ドライブ等気分転換が図れるよう支援している。遠方の入居者の出身地にドライブに行ったり、温泉に出かけることもある。家族との協力により、外食や墓参りなどの外出支援も行っている。	付近への散歩や買い物同行のほかに、法人のバスを利用して紅葉見物を兼ねての動物園やばんえい競馬場で動物と触れ合うなど季節と場所を工夫した外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて所持している方もいる。お小遣いを預かり、使用した際にはお小遣い帳に記録し家族へ報告している。外出時にお小遣いを使うことによって楽しみを持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話を掛けたり、受けたりは特に拘束することなく行っている。手紙のやり取りも希望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は常に衛生的にし、誰が使っても不快とならないよう充分に配慮している。デッキにプランターをおき野菜や花を作り季節感を演出している。壁には、季節感を感じる様な掲示物を張ったりしている。	共用空間は清潔で掃除が行き届いている。季節を感じさせる掲示物やプランターで育てている野菜や花が居心地の良い居間を演出している。利用者が水やりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはいつも利用者が集まり、会話を楽しめるよう支援をしている。空間が広く椅子をたくさん置き、座る場所をその都度選べるようにしている。上がり座敷があるので、そこも活用したい。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの家具等を持ち込み、今までの生活と変化が無いよう配慮し居心地良く暮らせるよう支援している。遺影や位牌を置き故人を偲べるようになっている。室内には、家族からの絵や写真を自由に提示できるようにしている。	馴染みの家具・仏壇・遺影、家族の写真、小物を配置し、それぞれ居心地の良いものとなっている。居間には洗面台とトイレが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ利用者が1人で出来るように能力に応じて環境を整えている。居室が分かるように表札が付いている。居室やベッドに手すりを個別に設置している。タンスに入っている衣類を表示している。食卓椅子は立ちやすいようにすべりやすくしている。レイアウトをむやみに変えて不安を招く事が無いように気を付けている。		